



## p4cみやぎ2月研修会報告

令和4年度の探究の対話(p4c)研修会も最終回となりました。本年度は、年間を通して6回の研修の機会を設けることができました。

## 【本年度の研修会】

第1回：6月29日(水)

「教育施策における『探究の対話(p4c)』の活用について」

講師：上廣アカデミー

小関 俊昭教育支援コーディネーター

第2回：8月31日(水)

「家庭科教育における実践」

講師：宮城教育大学 菅原 正則教授

第3回：10月26日(水)

「第20回子どもの哲学国際学会事務局からの報告」

講師：ハワイ大学大学院 渡邊 文氏

第4回：12月7日(水)

「p4cとICT教育」 講師：和光市立第五小学校

(麗澤大学大学院)古見豪基先生

第5回：1月25日(水)

「教科(図工・音楽の鑑賞)におけるp4cの実践」

講師：仙台市立台原小学校 鈴木 慎吾先生

第6回：2月22日(水)

「ファシリテーターってなんだべねえ？」

本年度の研修会にご参加いただいた皆様には、改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。

令和5年度も引き続き探究の対話(p4c)定例研修会へのご参加を心よりお待ちしております。

## 第6回

## p4c みやぎ定例研修会(オンライン)

テーマ：「ファシリテーターってなんだべねえ？」

【佐藤所長 挨拶概要】

本日も研修会にご参加いただきありがとうございます。p4c みやぎは、公益財団法人上廣倫理財団から、ご理解と温かいご支援をいただきながら活動しております。今日もオンラインという形ですが、ピンチはチャンスと捉えて、全国各地からお集まりいただいた皆様と意見交換ができればと思います。

(哲学の語源や神聖ローマ帝国のフリードリッヒII世の逸話などを引用しながら)

哲学対話をする時に大切な言葉は、考えるための道具であるとともに、コミュニケーションをとるためのスキルでもあります。それを磨くということは、とても大切です。

今回のテーマであるファシリテーターは、言葉を発する者として、探究の対話だけではなく、普

段の生活でも子ども達の言葉の発達のモデルにもなっているの、意図的または無意図的に子どもに影響を与えていることを考えながら、どんな役回りをしていけば良いのかということ、皆さんと今日は話し合っていければと思います。

## 【各グループから】

## 〈Aグループ〉

- ファシリテーターは、出過ぎることなく、その人自身も楽しんでいるということが大切で、それが場の雰囲気良くしていく。
- ルールを意識しながら、話の流れを作る。例えば、個から個への問いかけにならないように、全体に問いを広げるなどの工夫をする。
- 掘り下げを意識するあまり、参加者にやらされ感を与えない様に、バランス良く進める。
- 掘り下げの問いについては、選ばれなかった問いの中に生かせるものがあるので、それらを有効に使っていく。

## 〈Bグループ〉

- 生徒総会の会則変更に向けて代議委員の男女比を無くし、やりたい人にやってもらおうという意見が出た時、「これってジェンダーフリーなのか」というつぶやきがあった。そこから「平等とは?」「公平とは?」「真のリーダーとは?」という話し合いをした。普段の生活の中から生徒のつぶやきを拾えたらおもしろいと思う。
- 授業では、教師も一緒に悩み苦しみながら、自分だったらと考える。対話を進めるために、「例えば」を使ったり、パスをする姿を見せたり、モデルを示していくのがファシリテーターの役割である。
- どんな発言でもルールに従っていればOKと促したり、励ましたりして進めている。一つの方向に固まりつつある時は、カウンターexを使って揺さぶると別の角度からの話になっていく。FAも一人の参加者として楽しむことが大事である。

FAとは：話を受け取る人、一番に聞いている人、対話を下から支える人、話を聞きながら新しい気づきを促す人等

## 〈Cグループ〉

- 授業のねらいのことを考えてしまうことがあるが、思考と主体性をうまく生かすことが大事である。自分自身との対話や考えること自体がねらいの達成につながる。
- カリキュラムマネジメントもファシリテーターの役割であり、本時だけでなく年間を通してどのようにp4cを進めていくかを考えることも大事になってくる。
- 中学生の中にミニファシリテーターを育成し、子どもたちにもファシリテート力を高めながらセーフティを醸成していくことを考えて、p4cを実践している。
- ファシリテーターとして、問いは複数用意していくが、無理に考えを深めようとするのではなく、聞いてみたいことを聞くようにすることで楽しい対話につながる。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail [p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp](mailto:p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp)